

# ものがたり イースター物語

イエス様と弟子たちは、ユダヤの過ぎ越しの祭りを祝うために、エルサレムにきていました。過ぎ越しの祭りとは、昔神様がユダヤ人をエジプトの奴隷制度から解放してくださったことを記念して祝うお祭りです。礼拝と特別な過ぎ越しの食事のために、あちこちからユダヤ人が集まってきていました。

この物語の出来事が起こるちょうど数日前の日曜日に、イエス様は昔の預言<sup>1</sup>を成就しました。今までにだれも乗ったことのないロバに乗ってエルサレムの町に入ると、人々がイエス様を、神様が送ると約束しておられた救い主として、喜んでむかえ入れてくれるという預言です。

イエス様は前々から弟子たちに、ご自身が裏切られて弟子たちから引きはなされることを話していました。けれども、おそれるにはおよばないことや、彼が殺された後、また生き返ることも、話してありました。弟子たちには、イエス様が言うておられたことの意味がわかりませんが、まもなくわかるようになります。

みんなで夕食を食べていた時、12人の弟子の一人で、イエス様に対して忠実ではなかったユダが、集まりからぬけ出し、出て行きました。そして、イエス様の敵のところへ行って、その夜イエス様がどこへ行くかを話してしまいました。

ユダは、食事の後イエス様と弟子たちの何人かが、祈るためにゲッセマネの園へ行くことを知っていました。ユダは神殿の番人たちを園に案内し、番人たちはイエス様をたいほしました。



イエス様が神殿の祭司たちの前に立つと、祭司たちは、イエス様が彼らの宗教上の伝統を破り、神に対して無礼な行いをしたと言って、とがめました。その後、彼らはイエス様を裁いてもらおうと、ローマ総督ピラトのもとに送りました。当時、イスラエル民族はローマ帝国の一部だったので、ユダヤ人はローマの裁判にかけることなしに、だれも裁くことができなかったからです。

一方、イエス様の弟子たちは、彼を見捨ててしまいました。自分たちもろうやに入れられるかもしれないとおそれたからです。イエス様の最も親しい友人であったペテロさえも、人にたずねられた時に、自分は彼を知らないと主張しました。イエス様は、ご自分の愛する者たちに見捨てられてしまったのです。

ピラトは、イエス様が良い人だとわかったので、有罪にしたいはありませんでした。けれども、人々に対して大きな力を持っていたユダヤ人の祭司たちを満足させたいとも思いました。それで結局、ユダヤの祭司たちを満足させるために、イエス様をはりつけにするという判決を下してしまったのです。

イエス様は、死ぬ時たくさんの痛みで苦しみました。むちで打たれ、その後くぎで十字架に打ち付けられただけではなく、罪のためにご自身の父から切りはなされたと感じる心の痛みも味わいました。というのは、死ぬ時イエス様は、世界中の罪を背負って死んだからです。わたしたちのために自分の命を捨てることで、イエス様はわたしたちの罪をつぐない、神様のご計画である、わたしたちの罪のゆるしを成就しました。それによって、わたしたちがいつの日か、永遠に神様と共に暮らせるようになるためです。

イエス様が十字架にかけられた後、彼は死んだので、みんな、イエス様に再び会えるとは思っていませんでした。イエス様の友人たちも愛する人たちも、ものすごく悲しんでいました。けれども、まもなくしておどろくことが起こりました！





三日後、つまり イエス様が 十字架に かけられた後の 最初の 日曜日 の ことです。イエス様の 友人、マグダラの マリヤと ヤコブの 母 マリヤと ヨハンナと サロメが 朝早く、悲しみながら、イエス様の 体が 納められている お墓に 出かけて行きました。ユダヤの 習慣に従って、イエス様の 体に ぬるための 香料と 香油を 持って行ったのです。

ところが、お墓の 近くまで 来ると、お墓の 入り口を ふさいでいた 重い石が わきに どけられているので、女の人たちは びっくりしました。中には、雪のように 真っ白な 衣を 着た 天使が すわっていました。

「イエス様を さがしているのでしょうか。」と 天使が 言いました。「けれども、イエス様は 死から よみがえられました！ もう お墓の中には おられません。自分で 見てごらん下さい。」

天使は 言いました。「イエス様は、あなたがたよりも 先に ガリヤヤへ 行かれます。前に あなたがたに 約束されたように、そこへ 行けば、イエス様にお会いできるでしょう。けれども、まず 最初に、ペテロや ほかの 弟子たちに、何が 起こったかを 伝えに行きなさい。イエス様が 死から よみがえられたと 伝えるのです！」

女の人たちは、自分たちが 見たことや 天使から 聞いたことで 大きな ショックを 受け、ぼうっとしながら、お墓を 立ち 去りました。すぐさま 弟子たちの元へ 行って、その朝の 出来事を ことごとく 話しました。

ほとんどの 弟子たちは、女の人たちが 気でも ちがったのではないかと 思いました。

「わたしたちは、三日前に イエス様が 死なれるのを見たんだ。」弟子たちの 一人が 言いました。



「彼は十字架にかけられた。生きてはいるはずなんて、ないだろう？」もう一人も、信じられないといったようすで言いました。

けれどもペテロは言いました。「でも、もし彼女たちが言っていることが本当だとしたら？わたしがようすを見てこよう！」

「ぼくもいっしょに行くよ。」とヨハネが言いました。ヨハネとペテロはお墓に走って行きましたが、ヨハネはペテロよりも足が速かったので、先にお墓に着きました。でも、中に入るのがこわかったのでお墓の外に立っていると、ペテロも追い付いて、すぐさま中に入りました。すると、お墓の中は空で、イエス様の体を包んであった亜麻布だけが、イエス様の体が置かれていた石台の上に残されていました。

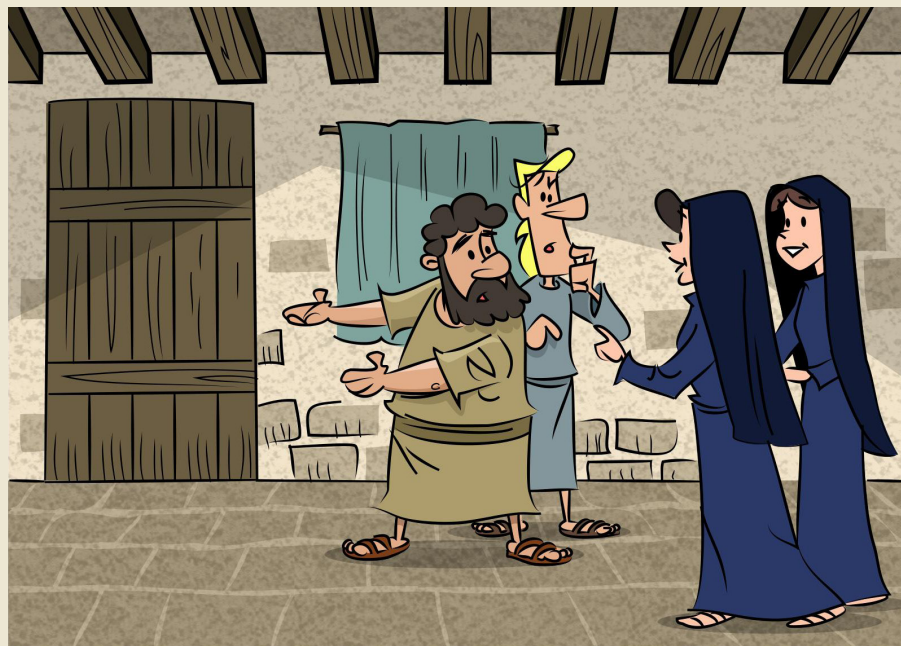
「イエス様はどこだい？」お墓の外からヨハネが問いかけました。

ペテロは言葉も出なくて、答えられませんでした。ついに、ヨハネも勇気をふりしぼってお墓の中に入りました。二人の弟子たちは、おどろきで空のお墓を見つめるばかりです。（女の人たちが言っていたことは、本当なのか？ イエス様は、もうここにはおられない。本当によみがえったのかも！）そう二人は思いました。

その日の午後、イエス様はもう二人の弟子たちにも現れました。クレオパとクレオパの友人が、エマオという村へ向かって歩いていた時です。二人は、イエス様が十字架にかけられたこと、彼の体が消えてなくなったことについて、話していました。そこへイエス様が現れ、二人といっしょに歩いて行きましたが、二人はそれがイエス様だとは気が付きませんでした。

夕方になって、二人はこの「見知らぬ人」を夕食に招きました。イエス様がパンを取って半分に割くと、それを祝福し、その後消えてしまいました。その時やっと二人は、それがイエス様だと気付いたのです！

二人の弟子たちは急いでエルサレムへもどり、何が起こったかをほかの人たちに話しました。けれども、ほかの弟子たちは、この二人の話も信じませんでした。



その後、イエス様は部屋にいる全員の前に現れました。そしてやっと、みんな信じたのです。弟子たちはみんな、イエス様が生きているのを見て、ものすごく喜びました。

イエス様はよみがえった後、40日間地上にとどまり、500人以上の人が彼を見ました。イエス様は弟子たちと一しょに時間を過ごし、彼らをはげまし、また、彼が天国にもどった後はどのようなミニストリーをするようになるのか説明しました。その間、イエス様は数多くのおどろくべきことをすることができました。急に現れたり消えたりすることもです。

40日間は過ぎると、イエス様は地上を去り、天の父の元へともどって行きました。



神様は、たった一人の息子であるイエス様をこの地上へ送り出すほど、あなたを愛してくださいました。それは、あなたが主のゆるしを受け取り永遠に神様と一しょに暮らすことができるようになるためです（ヨハネによる福音書 3:16）。ではここで、イエス様の大きな愛を受け入れるためにあなたが祈れる簡単な祈りを紹介しましょう。

「イエス様、あなたが十字架の上で死なれ、わたしの罪のためにつぐないをしてくださったこと、それによって、わたしが神様の愛を経験し、永遠にあなたと一しょに暮らすことができるようになることを感謝します。どうぞ、わたしの毎日の暮らしに加わり、いつもわたしと一しょにいてください。わたしが良い子でいてあなたのそばにとどまれるように助けてください。そして、周りの人たちにに対して親切でやさしくなれるように教えてください。アメン。」

#### 脚注

1 ゼカリヤ書 9:9-10

